
ハードボイルド高校白書

スタンリッチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハードボイルド高校白書

【Nコード】

N9588C

【作者名】

スタンリッチ

【あらすじ】

ハードボイルドな高校生のアウトローな生き方

瞳の奥に・・

羽をもがれた男が愛という神の代名詞を語るのは罪・・

38人の小宇宙入りの缶詰はティーチャーの名を持つ男の虜だった
ただ一人のゴールデンボーイを除いては・・

毎日が右から左へと続くレールの椅子取りゲーム

はんっ・・俺はちやちな玩具じゃ満足しないぜ

ドラッグセックスバイオレンス・・

退屈な男の教えにはNOという部類に選択される言葉だ

偏見かも知れないがマスターベーションを楽しむように変態のレッ
テルを隠して生きているのだろう・・

出席番号28番

同じ缶詰の中に彼女は息を潜めていた・・

俺の恋人・・マイ スウィート ハニーだ・・

一見、普通の女子高生だが最近・・様子がおかしい

孔雀が羽を広げた様な、その瞳の奥に眠る悲しげな影

もう俺は過去が存在でしかないのかもしれない

梅雨の蒸し暑さを肌で感じながら、空に浮かぶ雨雲に彼女の面影を
重ね・・ポツリ、ポツリと滴り始めた雫に伝えたい言葉を悟った・・

「泣きたいのはこっちだぜ・・」

そして、クラスの女子はテレビ伝道師の様に聞いてもない話を淡
々と繰り返す男に訴えた・・

「先生！またこいつ空見てブツブツ言ってる・・ほんときもい
！！」

ちい・・アバズレがあ・・・・・。

ハーレー

陸上競技だと・・

神の一手を待たず、籠の中の鳥達は競って一番に飛び立とうとする
ふざけたゲームだ

俺に言わせればBARでミルクを頼む様にな

だが・・今日はお前らの生存競争に付き合ってやる

ガキの遊びもたまにはいいだろ・・なあ・・兄弟

こいつを紹介するぜ・・

ハーレーダビットソンFLSTC

排気量1584ccの地球に厳しいモンスター野郎だ

・・・

ふっ・・

準備は出来たか・・いいぜ

クラッカーを鳴らしなよティーチャー

早くしないと俺の懐に忍ばせてるやつで

パン・・

あっ・・ちよつと・・

まっ・・いいだろう・・

丁度いいハンデだ・・ブラザー・・ショウタイムだぜ

そしてクラスの女子は脳みそまで筋肉に犯された男に訴えた・・

「先生。またこいつプラモデルもってブツブツ言ってます。ホント
きもい。」

ちい・・女の理解できる世界じゃないんだよ

キンコーンカーンコーン

飯の時間か・・

子曰く・・・この為に学校へ着ている・・・

先生・・・やっとおっしゃる意味が分かりました

席に着く俺は運び込まれる飯にありついた・・・がつついた

飛べない豚はただの豚・・・か・・・

チョイワルオヤジの武士の一分だ・・・

失われたバイブルは、やがて沈みゆく海賊船の様に・・・

時代という混沌の渦と化す・・・

・

神よ・・・

・・・

もしも願いが叶うなら・・・

生きた屍の様になりてさ迷う者達へ・・・モーゼの様な先駆者を・・・

・・・

俺か・・・

NO PROBLEM・・・だぜ・・・

一杯のウォッカが俺の毒素を吐き出してくれるからな・・・

そして、社交的なパーティーはフィナーレを迎えようとしていた

「先生・・・またこいつ牛乳で酔ったフリしてます・・・もう疲れてきたんだけど・・・」

小娘・・・諦めたらそこで試合終了だぜ・・・

・・・

俺の知る限り、彼は二度の死刑宣告を受け、二度の脱獄に成功している・・・

彼とのファーストコンタクトは薄暗い地下牢だった・・・

「ふうう、、、ガルルルル・・・」

ガシン・ガシン・ガアーーン・・・

ダツダツダツ・・・迫りくる圧力〓殺気

「ちい・・・パーティーの始まりか・・・」

彼は獲物に飛び掛る・・・その飢えた牙は俺の右腕を喰いちぎろうと
していた

「痛うう」

俺も必死だった・・・まさか迷子のフェレットを探しに警察署に来て、
サバンナさながらの生存競争に巻き込まれるとは・・・

まさに・・・トラブル・・・虎と龍・・・虎舞竜

俺は唸りを上げる彼の鼻っ面にDECOPINを喰らわせた・・・

ウギャン・・・男達の戦いが終わる頃・・・

俺たちには友情が芽生えていた

レッドアイツホワイトドラゴン・・・真紅の瞳で語っていた・・・

「兄さん・・・僕を連れてって・・・」

「ブラザー・・・蛇の道は蛇だぜ・・・」

ある日の出来事だ・・・

あつ・・・言い忘れたけど、俺は軍隊の様なハイスクールで優秀なソ
ルジャーとして活躍いる

そんな俺がだ・・・家に帰ってくると顔がにやけちまう・・・

「HEY・・・ブラザー・・・」

・・・

・・・

．．．．．

おかしい．．

呼んでも来ないのは当たり前だが、ここは彼のテリトリーだ．．
いつもは息苦しい殺気に包まれているが、それが無い

「嵐の前の静けさか．．」

コンコン．．玄関から聞こえた．．

俺はファイティングポーズをとっていた．．条件反射ってやつだ
張り詰める空気．．息を飲む．．ゆっくりと玄関が開いていく．．
そこに立っていたのは隣のおばちゃんだった

「だめよ逃がしちゃ。お宅のフェレットよね」

俺はその姿に身を凍らせた．．

おばちゃんに驚掴みにされもがくブラザー．．

牙．．爪．．右ストレート．．

どれも通用していない．．か．．勝てる気がしねー．．

しかし、偉大な兄弟は戦い続けていた．．

俺は震える身体に鞭をいれ．．．．叫ぶ様に吐き捨てた

「す．．すいません、ありがとうございます」

ボタン．．

ソメイヨシノが咲く頃は

桜舞う下で君はいつも俺を待っている

「死んだ魚の目がほしい・・もう何も見ずに済みそうだから。」
集中の糸が切れた様に彼女は涙を流した

俺は疑問に思うんだ・・

拳銃で頭をブチ抜いたら、もっとシンプルに生きられるのか
彼女の言う通り、この世界はどこか心を麻痺させないと生きて行けないのかもしれない

馬鹿な俺でも、やっと気付いたんだ・・

それが大人になることだって

人生を砂漠に例えるなら、

一滴の水を求めさ迷うか、生きる意味を探しだすか・・

・・て、感傷に浸るより俺にはやることがある

まるで、彼女の笑顔を取り戻す為のピエロにでもなった気分だ
皮肉が頭をよぎりながら、いつの間にか泡のようにそいつが消えていくんだ

何故だろう・・君の幸せそうな横顔を見ると、俺の存在がピエロであろつと道化師は喜んでもらってナンボだろつてな感じ・・

あの時は知らなかった未来・・桜の木は変わらないが街の景色は少し変わった

俺は臆病者だ・・真実を言えば君はまだ隣に居てくれただろうか
君の流す最後の涙はいまだに俺の心に焼きついている

俺は桜の木を見て思うんだ

街は変わっても何も変わらないものがある

それは大人になるに連れ無くして行くモノとは逆に一生消えない痛み
みの様なモノ

俺は多くの出会いで一つ分かったことがある

人は同じような痛みの中、人生を生きている

だから、泣き言は止めにして、好き勝手生きてきた人生、見据える場所まで昇って見たくなったんだ。こんなご時世、道に迷うこともあるかも知れないけど、ここにくればこの桜が俺を案内してくれる・

・今も目を閉じれば君はこの下で・

俺は春が嫌いなんだ・ソメイヨシノが咲く頃は、淡い物語に心奪われるから・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9588c/>

ハードボイルド高校白書

2010年10月28日02時38分発行